

史学委員会
中高大歴史教育に関する分科会（第24期・第2回）
議事要旨

1. 日 時 2018年2月16日 午前10時～12時10分
2. 会 場 日本学術会議会議室5C-(2)
3. 出席者 小佐野重利, 若尾政希, 川島真, 君島和彦, 木村茂光, 京楽真帆子, 久保亨, 小浜正子, 近藤孝弘, 坂井俊樹, 鈴木茂, 星乃治彦, 三谷博, 桃木至朗
4. 議 事
 - (1) 前回議事要旨(案)の承認
配布された議事要旨(案)を承認した。
 - (2) 分科会役員の選出
委員長に若尾政希(第一部会員)、副委員長に坂井俊樹(連携会員)、幹事に近藤孝弘(連携会員)、同じく久保亨(連携会員)の各氏を選出した。
 - (3) 日本学術会議のHP(トップページ)の掲載文について
用語精選問題をめぐる経緯について説明があり、日本学術会議における第一部の位置、高校歴史教育に関する分科会の歩みなどに関する意見が表明された後、本年2月9日に日本学術会議のHP(トップページ)掲載された下記の文章を確認した。
「高等学校の学習指導要領の改訂に併せて、民間有志による研究会「高大連携歴史教育研究会」は、去る10月30日、「高等学校教科書および大学入試における歴史系用語精選の提案(第一次)」(以下「用語精選基準案」という。)を公表しました。この用語精選基準案の作成と日本学術会議との関係につき、お問い合わせがありましたので、説明します。
この用語精選基準案は「高大連携歴史教育研究会」が独自に作成したものであり、日本学術会議は作成に関与していません。今後、「高大連携歴史教育研究会」が作成する予定の最終版にも、日本学術会議が関与することはありません。
また、「高大連携歴史教育研究会」が行っている「高等学校歴史教科書・大学入試出題用語精選基準に関するアンケート調査のお願い」には、日本学術会議も名を連ねています。これは、関係者の意向の分布等を確認することにより、高校の学習や大学入試に必要と考える用語数の量的な水準に係る、今後の日本学術会議における議論の参考になると考えたからです。日本学術会議としては、「用語精選基準案」を支援・推奨する意図はありません。」
 - (4) 今後の審議計画について
今期分科会で何を取りあげ審議していくべきか、種々の意見が提起された。当面、高校「歴史総合」科目用の教科書作成作業が進むことに鑑み、本年4月に公表され

ると推定される学習指導要領を踏まえ、教科書に求められる内容を議論する意味は大きいこと、「歴史総合」科目と「世界史探究」科目・「日本史探究」科目の兼ね合いについても注意を払う必要があること、実際に教室でどのように教えられるかも問われること、大学入試によって制約される面も多いので、入試改革の動向にも注意すべきこと、中学の歴史教科書に世界史的内容がどの程度盛り込まれていくかも懸念されること、大学における歴史教育も改めて問われること、などが指摘された。

以上の指摘とそれに基づく意見交換の後、本年8月4日、高校「歴史総合」科目用教科書に求められる内容や「世界史探究」科目・「日本史探究」科目との兼ね合いについて、関係者を招き学術会議講堂でシンポジウムを開催することになった。

また上記計画を具体化し準備を進めるため、4月27日（金）に次回分科会を開くことも確認した。

(5) その他

新たな高校学習指導要領（案）のパブリックコメント募集が始まっているので、是までの審議を踏まえ、個々の会員・連携会員が積極的に意見を寄せていくことを確認した。

* 次回は、本年4月27日（金）午前10～12時、学術会議会議室にて開催。